

〈特集〉

病棟・外来における検査説明への取り組み －13年を振り返って－

野上 綾子

Efforts to the explanation of the test results and medical consultation in wards and outpatients -Looking back on 13 years-

Ayako Nogami

Summary As a Certified diabetes educator from Japan, 13 years have passed since I was involved in explaining test results and providing medical consultation to patients and their families. During this time, the medical situation and patients' interests and demands for medical care have changed. Along with this, we aim to "cuddle with patients" and have expanded these tasks as part of enhancing team medical care, clinical practice, and regional support and have also worked on training Medical Technologists.

Here, we report our efforts to explain test results and provide medical consultation, as well as the actual situations at our hospital.

Key words: explanation of test results and medical consultation, cuddle with patients, training Medical Technologists

糖尿病療養指導士として外来・病棟患者さんあるいはその家族の方々への検査説明に携わり13年が経過した。この間、医療をとりまく環境や、患者さんの医療に対する関心・要求も変化している。こうした背景の中、当科では「患者さんに寄り添う」ことを目標に掲げ、チーム医療の充実、診療および地域支援の一環として検査説明業務を拡充させるとともに、技師育成においても取り組んできた。

今回、当院における検査説明への取り組みと現状について紹介する。

I. 当院における検査室外での取り組み

当院では検査室内での業務に加え、外来・病棟へ積極的に出向きチームの一員として活動している (Fig. 1)。これらの中でも検査値の読み方を中心とした糖尿病療養指導・検査説明は長きにわたり実施しており、現在では7名の技師が担当している。

飯田市立病院臨床検査科
〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
Tel: 0265-21-12553
E-mail: 0376@imh.jp

Department of Clinical Laboratory, Iida Municipal
Hospital
438, Yawatamachi, Iida-shi, Nagano, 395-8502, Japan

○ 全員実施：ドック採血・病棟採血(2名交代制)

○ 担当者実施



Fig. 1 当科における検査室外での取り組み

II. 検査説明業務の始まり

当院における検査説明の始まりは、平成15年8月から開始した糖尿病療養指導である。開始当時は技師2名が担当し、①院内糖尿病教室（集団指導）、②教育入院患者指導（個別指導）、③血糖自己測定（SMBG）指導が業務であった。患者自身が自分の検査結果を理解し、興味を持って血糖コントロールに取り組んでいただくことを目的とした検査説明である。患者さんとその家族を対象に、血糖・HbA1c・尿糖・血中脂質（総コレステロール・中性脂肪・HDLコレステロール・LDLコレステロール）について各項目の意義と結果の読み方の解説、尿糖自己測定による自己管理の有用性について、模擬検体による実演を交えながらの紹介であった。③のSMBG指導については、当院では測定器の管理・導入時指導は外来看護師が実施しており、検査技師は導入後のフォローアップと測定結果の確認が主であった。

臨床検査技師による糖尿病療養指導チームへの参画は一部の職種に受け入れられたものの、実際の介入は容易ではなかった。臨床からは、検査技師の介入は保険適応がないことに加え、検査技師は患者さんと接する機会が極めて少な

いことが不安視され、説明内容も限られていた。当時の説明を振り返ると、患者さんのための説明であるはずが、説明する側が主役となっていたことは否めず、経験の乏しさによる不安は技師の視点からもの中していた。特に頭を悩ませたのは医療用語であった。我々が業務の中で使用する言葉は一般的でなく、その認識も薄いが故に一方的な会話となり、患者さんが知りたいことや抱えている思いなどを聴く余裕もない状態であった。また、検査科内においても患者さんと検査技師が検査結果について話をすることは一般的なことではなく、通常検査業務を遂行しながら臨床に合わせた検査説明業務に対して十分な理解は得られていなかった。

この状況を回避するためには何をすべきか。臨床・検査科・担当技師の相互理解を得る必要がある。そのためには信頼しあえる関係性の構築が早急の課題と考え、コミュニケーションを図ることを目的に以下のことに取り組んだ。

(1) 他職種との連携

①指導前には、実施予定の説明内容や当該患者の課題とそれに対するアドバイス内容など、できる限り詳細に医師あるいは看護師へ報告し、助言を求めた。

②指導時は看護師に同席いただき、指導内容

や患者さんとの接し方等について指導を受けた。この一連の流れは、不安を払拭できるまで繰り返した。

- ③単独で指導するようになった後も、医師・看護師へ内容や状況を報告し指導を仰いだ。
 - ④学会や勉強会等のイベントは積極的に参加した。
- (2) 検査科内での取り組み

検査科内での理解・協力を求めるために、

- ①指導業務への取り組みやその成果について科内学習会や学会発表などを通し報告。
- ②興味を抱いた職員を対象に実際の指導を見学。
- ③検査科糖尿病ケアチームの設置により担当者を増員。

Ⅲ. 現在の検査説明業務

当科は現在7名の技師（検査科長、微生物2名、生化学1名、一般1名、生理2名）が担当し、検査説明業務を実施している（Table 1）。これらの中から、検査説明に重点をおいた業務について紹介する。

(1) 糖尿病療養指導¹⁾

- ①糖尿病教室（集団指導）、教育入院指導（個別指導）

当科で療養指導を開始したときから実施している検査説明である。外来、入院患者さんとその家族を対象とし、糖尿病教室（集団指導：月

1回）、教育入院指導（個別指導：適宜）を行っている。説明時間は30分程度とし、血糖、HbA1c、尿糖、血中脂質、肝機能、腎機能項目について、各項目の意義と結果の読み方を解説している。教育入院指導では実際に患者さんの検査結果と主治医から設定された血糖・HbA1c目標値（Fig. 2）を提示し説明することで、退院後の療養に役立てていただくことを目的としている。

②透析予防管理指導

2012年度診療報酬改定に伴い新設された透析予防管理指導（350点）では、当院でも透析予防支援チームが設置された。これは、指導対象患者さんに対し、同日に医師・看護師・管理栄養士が透析予防を目的とした指導を行うことで算定されるが、医師・看護師からの要望により検査技師による検査説明も行うこととなった。当院の指導カリキュラムは1人の患者さんにつき3回の指導を1クールとしており、検査説明は2回目の指導時に設定されている。実際の指導は待ち時間を利用し、15～30分を目安に腎臓・血液の働き、腎症病期、実際の検査結果（Fig. 3）を提示しながらの関連項目の解説と、糖尿病連携手帳を活用した結果の読み方を説明している。

(2) 飯田市立病院出前健康講座

当院では、平成28年度から地域医療部が窓口となり出前健康講座を開始した。この事業は院内各部署から依頼元へ訪問・開講し、地域住民の方々の健康増進に役立てていただくことを目的としている。受講対象は、当地域に在住する

Table 1 当院の検査説明業務

内容	対象者
一次予防：飯田市立病院 出前健康講座	地域住民・企業等
二次・三次予防：糖尿病療養指導関連	
糖尿病教室〈集団指導〉	外来・入院患者
糖尿病教育入院指導〈個別指導〉	入院患者・家族
糖尿病透析予防管理指導	外来患者・家族
皮下連続式血糖モニタリング（CGM）	外来患者・家族
カンパセーション・マップ	外来・入院患者
二次・三次予防：血液検査結果の説明	患者・患者家族

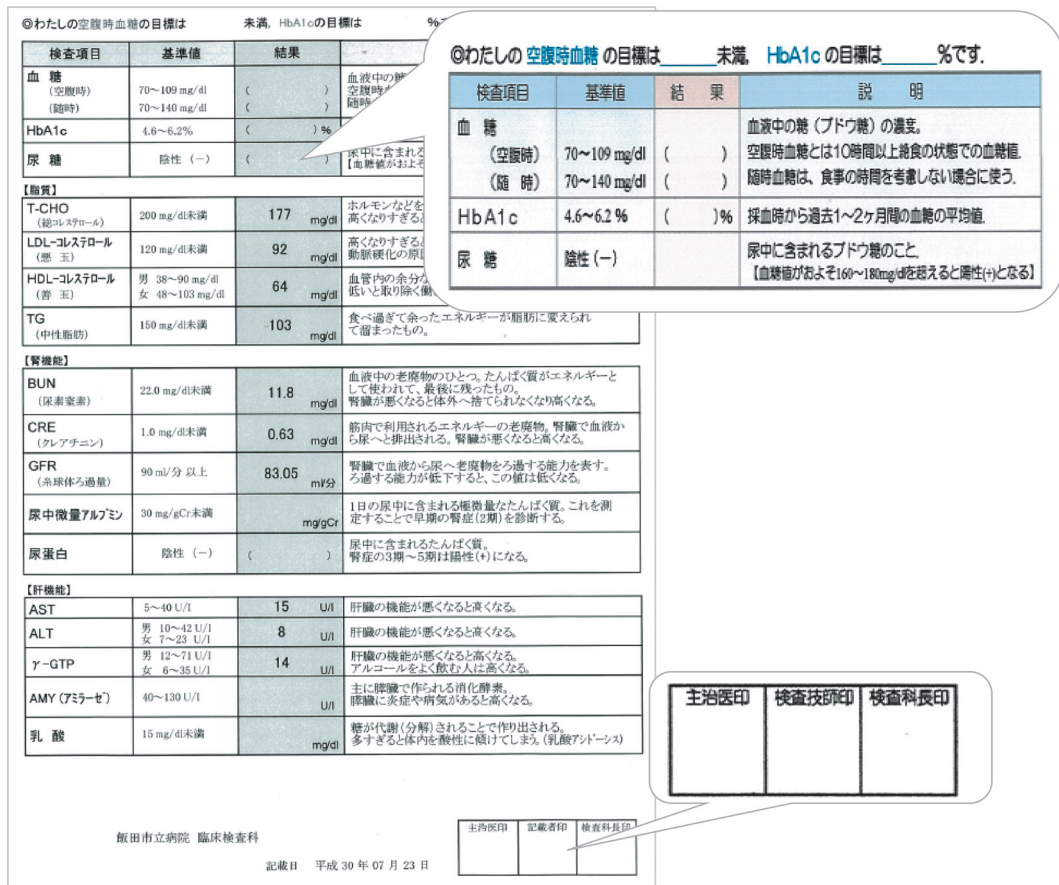


Fig. 2 教育入院患者用検査結果表

10人以上の団体・グループ（自治体、シニアクラブ、学校・保育所、企業など）である。当科においても臨床検査の普及啓発と、技師教育の一環として取り組んでいる。

講義の実際は、1講座につき2名の検査技師が担当し、「血液検査からわかるからだの病気」をテーマに、①血液の流れと役割、②主要臓器の役割とその関連検査項目（特定健診）、③血糖測定をしてみませんか？を内容として1時間～1時間30分で実施している。内容の詳細については受講者に合わせて各講義担当者が調整し、資料の見直しや作成を行っている。

平成28年4月～平成30年3月までの開講状況を Tabel 2 に示す。依頼団体は婦人会・地域のクラブ・企業・労働組合であり、参加者数は10～300名、年齢は20歳代～90歳代と、対象団体、年齢層ともに幅広く開催された。開催日時は受

講者の多くが高齢者であることから、ほぼ平日時間内の開講希望であったが、各自業務の調整と、検査科全員の協力を得ることで実施可能となった。

受講後の受講者アンケート結果では、資料や内容のわかりやすさ、聞きやすさについて高い評価が得られた。特に血糖測定体験においては、実際に高血糖を呈した受講者が後日かかりつけ医に受診するケースも見られた。臨床検査を身近に感じていただくとともに、早期発見・早期治療へと繋がった。

(3) 血液検査結果の説明

ある患者さんから、「専門用語のアルファベットが並んでいても、患者には何の数値か、正常か異常なのかわかりません。早急な対応を要望します。」と投書があった。この投書は医療安全推進委員会から経営会議、医局会へ挙げら

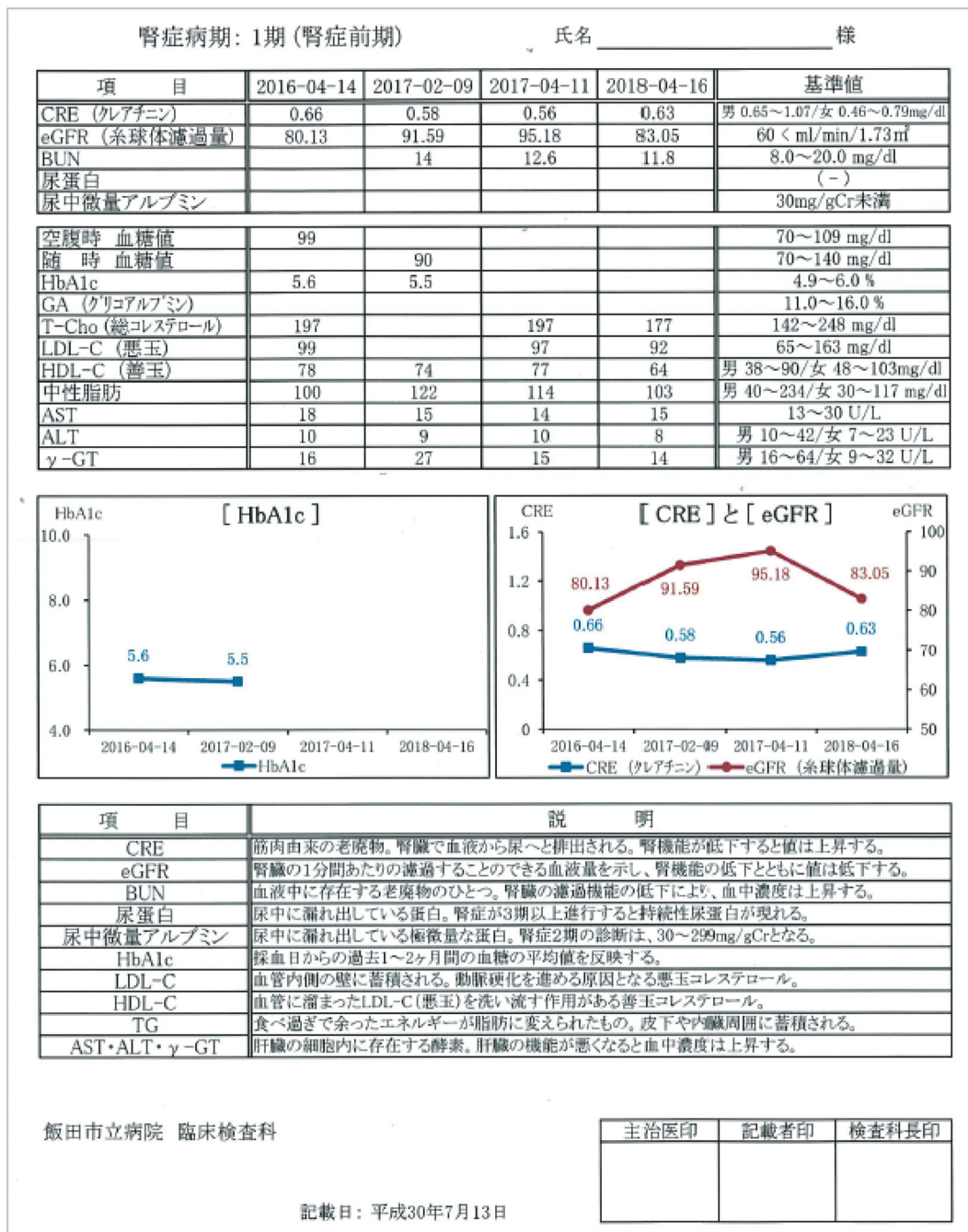


Fig. 3 透析予防管理指導用検査結果表

れた。医局会より、「専門以外の検査結果は、検査技師から患者さんへ説明して欲しい」との要望を受け、現在までに、脳神経内科・皮膚科・循環器内科の依頼に対応している。また、患者

さんの直接依頼にも対応し、当日実施分や他施設実施分を含む検査結果の読み方の説明、検査全般に対する相談等に応じている。

糖尿病療養指導および血液検査結果説明に対

Table 2 出前健康講座 開講状況

	日	依頼団体	人数	対象	時間	担当者
1	2016/4/26(火)	飯田市松尾地区婦人会	16	婦人会	18:30～20:30	○實原, 田中, 野上
2	2016/8/9(火)	はつらつ運動塾	30	上郷地区高齢者	9:30～11:00	○野上, 丸山
3	2016/8/24(水)	飯田市松尾サラダクラブ	11	60代女性組合員	10:30～12:00	○丸山, 實原
4	2016/9/6(火)	飯伊地区労働衛生大会	300	企業経営者他	15:00～16:30	○實原, 吉澤
5	2016/9/23(金)	社会福祉協議会	30	75歳以上の地区民	13:30～14:30	○田中, 三村
6	2016/10/12(水)	飯田市立石歩く会	10	50～70代女性	10:00～11:00	○吉澤, 野上
7	2016/11/13(日)	飯田市上久堅第3分館	30	上久堅地区全世帯	19:00～20:00	○實原, 吉澤
8	2016/11/18(金)	文吾林造園(株)	20	20～70代社員	18:30～20:00	○野上, 實原
9	2016/11/25(金)	ふれあいサロン箕瀬町	20	サロン参加者	13:30～15:30	○三村, 田中
10	2017/1/11(水)	ひまわりサロン	12	70歳前後	14:00～15:30	○田中, 三村
11	2017/6/22(木)	西鼎健康福祉委員会	20	西鼎65歳以上	10:00～11:00	○三村, 田中
12	2017/9/11(月)	上郷別府上老人クラブ	29	別府上老人クラブ	10:00～11:30	○野上, 實原
13	2017/10/8(日)	鼎切石区健康福祉部	70	鼎切石住民	9:45～10:50	○實原, 野上, 臼田
14	2017/11/16(木)	鼎上茶屋健康福祉委員会	18	鼎上茶屋70歳以上	14:00～15:40	○丸山, 中平
15	2017/12/20(水)	桐寿会	12	桐寿会70歳以上	9:30～11:00	○田中, 吉澤
16	2018/2/2(金)	松尾自治振興センター	25	松尾新井高齢者	10:00～11:00	○丸山, 野上
17	2018/2/19(月)	野池健康福祉委員会	25	千代野池地区住民	13:30～14:30	○野上, 西尾

応した際は、担当技師全員の情報共有と、指導を実施する上で技師間差が生じないことを目的として、指導実施用チェックシートあるいはカルテレポートの記録を徹底している。カルテレポートはSOAP形式にすることで、他職種との情報共有も円滑となっている。また、患者さんの状況に応じて、他職種への指導依頼も行っている。

説明あるいは指導を行うにあたり、当科の目標・課題である「患者さんに寄り添う」ことを常に意識し取り組んでいる。提示する資料は絵や図を中心とし視覚的にとらえやすいものとし、使用する言葉もできる限りやわらかくわかりやすい言葉に置き換え、対象者に合わせた資料の作成に努めている。また、説明時は、言葉の選び方だけでなく、声のテンポやトーン・顔の表情・身振り手振りを加える・患者あるいは受講者の方々の目を見ながら反応に注視し話を展開するなど、居心地のよい環境をつくることを心がけている。

このように患者さんに寄り添うことを共通の目標に掲げることで、検査技師として伝えたい、あるいは説明しなければならぬという使命感から、患者さんや受講者のニーズに応える検査

説明へと、担当技師全員の意識が変化した。

Ⅳ. 技師育成

検査説明を担当するにあたり、当院では以下のように一定の基準を設けた。①糖尿病療養指導による実習、②飯田下伊那地域糖尿病療養指導士(LCDE)取得、③長野県臨床検査技師会開催「検査説明・相談のできる検査技師育成研修会」の受講、④技師長による面接試験である。①から③を通し多くの知識と経験を身につけ、技師長面接により一定の力量の有無を評価後、実際の患者さんに説明することとしている。面接では、所要時間内での接遇、アイスブレイキング、説明における表現力等を重要視している。こうした取り組みは、経験が浅い若手であっても一定の技量は担保されると同時に、すでに担当者である技師にとっても新たな課題の発見の場となっており、更なるモチベーションの向上に繋がっている。

Ⅴ. 検査説明に携わって

医療従事者として患者さんと接する中で、「患

者さんが知りたいことと、我々が伝えたいことは一致しないことが多く、また、伝えたいことと、結果的に伝わっていることも必ずしも一致しない」このことを念頭に置く必要がある。患者さんのための医療を実現させるには、職種を超え医療従事者として患者さんに寄り添った姿勢が大切であると感じた。

チーム医療を重要視する糖尿病療養指導においては、検査技師の存在意義は何かを考えさせられる13年であった。近年、患者さんを対象とした検査説明・相談業務は増加しており²⁾³⁾、現在では、日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技）「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成」事業への取り組みによって、多くの施設で認知されるようになった⁴⁾⁵⁾。しかし、検査技師による説明が実際の臨床に反映され、どれほどの有用性があるのか、疑問や不安を抱えながらの日々であった。今回振り返る中で、患者さんからは「自分の検査結果が読めるようになった」、「なぜ塩分を減らす必要があるのかが検査の説明でやっとわかった」と今後の健康管理に対し前向きな発言が得られた。また、看護師からは「検査について患者さんに詳しく説明してくれるので看護師が説明するよりわかりやすい。看護師として生活に注目した療養指導に専念できる」、医師からは「今では技師の協力なしでは考えられない」と評価をいただいた。検査技師の専門性を活かした検査説明は、患者さんが今の状態を把握する上で効果的であり、更にも他職種が各々の業務を遂行する上でも重要な役割を果たしている。

検査技師が検査室の外で活動する上で大切なことは、検査科スタッフの理解と協力は必要不可欠である。患者さんや他職種の評価を得たことで満足せず、検査説明業務を行うことで得ら

れる実績や成果報告、さらにはそれぞれの担当技師が感じ得たものを伝えることは、検査科チーム医療においても技師育成においても重要であると考えている。

VI. まとめ

当科では、検査説明を行う上で最も大切にしていることは「患者さんに寄り添う」ことである。検査技師の役割として患者さんに伝えたいことや伝えなければいけないことがあるが、まずは患者さんがどのような思いを抱えて目の前に座っているのかを受け入れる姿勢が大切であると考えている。私は患者さんに寄り添いたく、アイスブレイキングの時間を大切にしている。

最後に、この13年間の支えになったのはチームの仲間と検査科スタッフであった。今後多くの技師が病棟や外来で活躍できるよう、得られた経験をフィードバックさせることで力添えができればと考えている。

「本論文内容に関連する著者の利益相反：なし」

参考文献

- 1) 實原正明ほか：糖尿病療養指導における検査技師の役割. *Medical Technology*, 43(1): 16-24, 2015.
- 2) 工藤奈美ほか：臨床検査技師によるチーム医療への参加. *日本クリニカルパス学会誌*, 16(2): 176-178, 2014.
- 3) 岸 孝彦：検査相談業務. *生物試料分析*, 38(2): 93-98, 2015.
- 4) 萩原三千男：検査説明・相談ができる臨床検査技師育成. *生物試料分析*, 38(2): 87-92, 2015.
- 5) 丸田秀夫ほか：臨床検査技師とチーム医療. *臨床病理*, 64(7): 847-850, 2016.